

平成十九年 4月号



岐阜県本部だより

japanese government approved non-profit organization(npo) japan karate syotorenmei HP : <http://www.fsnet.or.jp/~jks-gifu/>

発行：NPO法人日本空手松涛連盟岐阜県本部

発行責任者：岐阜県本部広報部

岐阜県岐阜市森東9番地 tel(058)-229-6066

岐阜県瑞穂市別府 1214 tel/fax(058)326-5512

船越義珍顕彰 世界松涛武道祭 沖縄県にて盛大に



「貴」と言う色の概念を覆す沖縄の空。

「美しい」と言う心の概念を覆す沖縄の海。

独特の文化を構築し、リゾート地としても人気の沖縄県ではあるが、空手発祥地としてそのルーツを辿ってみた。

その昔、琉球王国の禁武政策（国民は武器を一切持つてはいけない）に不安を感じ、ならば自身の身体を武器としようと考えられた空手。360度を海に囲まれた琉球王国の立地条件、その時代背景を考察すると、我々が歩む空手道の初めの一步はここからはじまり、そして本土へ、そして世界へと続いていったのだと思うと感慨深い。車で走っていると市内の路地裏はもとより、人里離れた海岸沿いにまで見かける「空手道場」。その数は想像を絶する。ただ、決して大きいとは言えないこじんまりとした道場を見るに、空手が隠密に伝承され、「一子相伝の武術」と言われた所以も伺える。その昔、自宅の居間を利用したり、貴空天井、或は師匠宅の中庭半分道場の形式が一般的であったという。

この歴史ある沖縄の地において、松涛館流祖船越義珍翁没後50年を期して世界松涛武道祭が開催された。今月号ではこの世界松涛武道祭を特集してお届けしたいと思います。



世界松涛武道祭 開催主旨

船越義珍氏(1868-1957 改姓前：富名腰)は、明治元年、沖縄県首里に生まれ、安里安恒・糸洲安恒両氏に琉球拳法「唐手」を学び、大正11年(1922)、はじめて本土に「唐手」を紹介しました。その後、「唐手」の名称を「空手道」と改めて日本武道として再編・体系化するなど、琉球拳法「唐手」を現在の国際的な「空手道」へと発展させた松涛館空手道の開祖です。また当時、本土の人びとにはなじみの薄かった沖縄を本土に知らせ、本土の人びとと沖縄の人びとを空手を通じて結び、揺れ動く両地の関係構築に大きな役割を果たしました。

このような功績は没後50年もその輝きを放ち続け、船越氏の名付けた「空手道」は今や世界の「KARATE」としてアジア大会やワールドゲームズなどの国際大会に採用され、世界100数十ヶ国に広まり、本土と沖縄を越えて、海外諸地域と太く強い絆で結ぶに至りました。しかし残念ながら、船越氏は国際的に最も知られた空手家でありながら、生誕の地「沖縄」には遺徳をしのぶ対象がありませんでした。

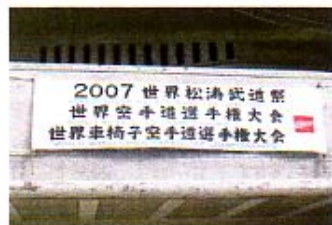
私たちは船越氏の没後50年を期して、その縁につながる者がその生誕の地に集い、顕彰碑を建立して功績を讃え、国際化した空手の原点を改らためて再認識し、本土と沖縄、そして海外諸地域の歴史的・文化的理解を相互に深める交流の場とすることを目的として「世界松涛武道祭」を開催します。(沖縄船越義珍顕彰会資料より)



首里出身で松涛館(しょうとうかん)空手道を開いた船越義珍氏の功績をたたえる顕彰碑。那覇市奥武山の護国神社参道に建立。



4月20日顕彰碑除幕式には大勢の関係者が出席。式典後の記念撮影。林会長、田中本部長も出席されました。



除幕式の翌日、顕彰碑から徒歩数分の沖縄県立武道館において世界松涛武道祭が開催された。会場には容姿も、文化も違う、まさしく世界の空手家達が溢れていた。確かに日本は空手発祥の地として、世界中の空手家達の憧れである。だが近年、他国の技術進歩は目を見張るものがあり、もはや日本のお家芸とは言えない状況であることも認めざるを得ない。

南アフリカ、レバノン、マカオ、台湾、香港、ギリシャ、インド、イギリス、ロシア、イタリア、カナダ、ニュージーランド、メキシコ、アメリカ、スイス、ドイツ、ウクライナ・・・まだまだ続く世界各国の選手の入場。少年少女、成人、そして車椅子選手ら500人超が、ここ沖縄に集結。熱戦が繰り広げられた。



各国のプラカードが整然と並んだ開会式。画像に映るだけでも全体の半分である。国柄は違っても礼節を重んじる武道の精神は皆同じ。会場のあちらこちらで「押忍」の言葉が、空手の心が交流する。



各国を代表するナショナルチームの出場もあり、一瞬たりとも目を逸らせられない試合の連続。熱い声援に国境は無かった。



オリンピック正式種目認可も、近い将来現実となるであろう。もはや空手は、日本だけのものではないと確信した。

岐阜県からも多数の選手が出場。大健闘を見せてくれた。結果は以下の通り。

世界松涛武道祭入賞選手（1位～3位・岐阜県選手のみ）



4/26 岐阜新聞にも掲載されました。

岐阜市の小中学生3人
世界空手大会で好成績

一般男子の組手の部は、参加選手106名。日本人選手11名が日本の威信をかけて世界の強豪に立ち向かった。見事優勝を決めたのは世界選手権男子個人組手70キロ級チャンピオンでもある、永木伸児総本部指導員でした。怪我からの復帰を優勝で飾った永木選手。また、一般男子の型の部は、牧田拓也総本部指導員が優勝を飾った。今後の活躍にも期待したいですね。

船越義珍（ふなこし ぎちん）先生の残された空手道の心は、脈々と受け継がれ、それは今もきつと世界中のどこかで伝承されている事でしょう。この様な素晴らしい大会を大成功まで導かれた沖縄船越義珍顕彰会 代表 立津明長先生（松涛連盟・沖縄県本部長）に心より御礼申し上げます。

9～10歳の部	男子	型	優勝	近松 颯
	男子	型	3位	後藤 峻汰
	女子	型	優勝	山田 梓
13～14歳の部	女子	型	2位	西垣 菜恵
	女子	型	3位	山田 愛里香
一般	女子	型	3位	大西 尚子
9～10歳の部	女子	組手	3位	羽佐田 愛
	女子	組手	3位	山田 梓
13～14歳の部	女子	組手	2位	西垣 菜恵

